

平成23年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ フカヤ ヒサコ
氏名 深谷 久子

研究期間 平成23年度

研究課題名 大学が発信する保育・看護学生共同参画の子育て支援プログラム開発に関する基礎的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	深谷 久子	看護学部	講師
研究分担者	清 葉子	教育学部	講師
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

大学における学生参加型の子育て支援の取り組みは体験談として報告されているが、学部の垣根を超えた保育学と看護学を融合させたプログラムのアクションリサーチはみあたらない。また、研究代表者らは、これまで、大学における地域子育て支援について検討を行い、親たちの育児スキルの向上がはかれるとともに大学教員の専門性と学生の参加という大学が持つ特性を活かした独創的な子育て支援を構築する必要性を見出した。

本研究では、この点に着眼し、本学看護学部研究倫理審査委員会の承認を得て、1) 本学近隣で乳幼児を養育する母親は、大学が発信する子育て支援に対してどのようなニーズがあるのか、また、2) 子育て応援キャラバン隊の学生は、子育て支援の実践をどのようにとらえているのかを探索し、3) 親たちにとって適切かつ学生の育成に効果的な大学が発信する子育て支援プログラム開発の可能性について検討する。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

【研究1】名古屋市名東区の6つの子育てサークルのいずれかに参加をしている0～4歳児の子どもの母親らを対象に、日々の育児や生活において必要と感じる支援などを半構成型質問紙調査し、質的内容分析により分析した。

【研究2】本学教育学部3年生と本学看護学部1年生名にフォーカスグループインタビューを行った。インタビューグループは3グループとし、インタビューは、1グループ1回のみ90分間行った。主なインタビュー内容は、「中京テレビ主催の子育てフェスタの実践に対して体験した反応」とし、分析は質的内容分析を行った。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

【研究1】「保育所子育て支援めぐり」の子育てサークル計6回において、半構成型質問紙調査を行った。質問紙は計6回のサークルの場で合計118名に配布し、回収率は100%であった。現在、回収をした質問紙の分析中であるが、「学生さんに将来の職業や自分自身の子育てに役立ててもらうため、学生さんと子どもとの触れ合う機会があればよい」という記述が認められている。

【研究2】本学教育学部3年生5名と本学看護学部1年生13名(計18)名にフォーカスグループインタビューを行った。インタビューグループは3グループとした。すなわち、①教育学部グループ5名、②看護学部Aグループ5名、③看護学部Bグループ8名で、インタビューは、1グループ1回のみ90分間行った。主なインタビュー内容は「中京テレビ主催の子育てフェスタの実践に対して体験した反応」とし、分析は質的内容分析を行った:1)インタビューデータを逐語録にし、グループ別に子育てフェスタで実践した体験の中から、思いや気持ちに関連する会話を抽出した;2)グループ別に抽出された反応をグループ内の個々の事例間での共通性を検討・分類し、カテゴリー化した;3)グループ別に抽出されたカテゴリーを3グループを統合的に分析し、より大きなカテゴリーへと抽象化し、具体例を提示する。

なお、現在分析の途中経過であり、看護学部Aグループから抽出された子育て支援実践の体験に対する反応は5つで、【子どもと家族とのかかわりの中で、看護の対象となる人に関する知識や考え方を深める】【自らの経験は看護職者としての弱みや最良の看護を追求する姿勢を柔軟に意味づけた】【子どもと家族の様子を振り返りつつ看護学性なりに子どもと家族への有効なケアを考える】【看護学部の仲間から感謝の気持ちと自分が変われる力をもらう】【教育学部3年生の姿に刺激を受けつつ先行きのお手本にしようとする】という状況であった。

引き続き、教育学部学生と残りの看護学部学生の語りを継続比較分析する予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①子育て支援	②母親	③看護	④保育
⑤学生参画	⑥大学が発信する	⑦養育ニーズ	⑧学生の認識

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

【公開した研究成果:学会発表】

深谷久子・清葉子:大学が発信する保育・看護学生共同参画の子育て支援実施における学生の反応の探索, 第58回日本小児保健協会学術集会, 平成23年9月3日(名古屋)

【今後の展望】

研究1と研究2をそれぞれ論文にまとめて、その2本の論文を各々学術雑誌に「研究報告」として投稿する予定である